

令和4年度別府市人権教育学級閉級式

日 時 令和5年2月16日(木) 11:30~11:50

場 所 別府市役所 5階大会議室

- 1 はじめのことば
- 2 あいさつ(概要)

(1) 別府市副市長 阿南 寿和 (市長代理)

今年度8回の人権教育学級にご出席を賜りまして人権についての学びを進められたということに深く敬意を表します。また、41回という長い間、開催にご尽力いただいた別府市PTA連合会の平岡会長さんをはじめ関係の方々に厚くお礼を申し上げます。

人権を取り巻く情勢は、2016年に差別解消三法が制定されております。障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法、それから部落差別解消推進法、これらの三法が制定・施行されてきたところですが、今なお、いろいろな人権侵害や差別の事象が見られるところです。

こうした中、国の方でも同性婚についての議論が続いています。2月1日の予算委員会の中で同性婚についての議論がありました。その後、共同通信社が実施した世論調査では、同性婚を認めるかどうかについては64%の方が認めた方がいい、24.9%の方が認めない方がいいということで、圧倒的に認める方向に進めるべきではないかとの結果になっています。とりわけ、30代とそれ以下の年代の方は、81.3%が認めた方がいいという回答です。このように、世の中の認識は変わっていることを念頭におきながら人権を考えていく必要があると思いますし、行政にかかわる我々としてもやはり社会を取り巻く情勢を敏感に感じて物事を考えていかなければいけないと改めて感じたいです。人権についていろいろな課題について考えられてきた皆さんと一緒に、まだまだ解決に至っていない人権の問題の解決に向けてしっかりと取り組んでいきたいと考えていますので、今後とも引き続きご支援ご協力を賜りたいと考えております。

結びに、皆さま方の今後益々のご健勝とご活躍をご祈念申し上げまして、挨拶とさせていただきます。一年間お疲れさまでした。ありがとうございました。



〈阿南 寿和副市長〉

(2) 別府市PTA連合会 副会長 川口 恵美



本日は第41回人権教育学級の閉級式にあたり別府市PTA連合会の代表としまして、受講された皆さまにご挨拶を申し上げます。一年間の活動、大変お疲れさまでした。

いつも子育てや家庭、仕事の都合をつけられ、お忙しい中をPTA活動に参加していただき心より厚くお礼申し上げます。

〈川口 恵美市P連副会長〉

さて、別府市は大分県より先に、平成26年4月1日から、別府市障がいのある人もない人も安心して安全に暮らせる条例、通称「共に生きる条例」を施行し、誰もが安全に安心して生活できるように取り組んでいます。そして、この人権教育学級は今年で41回という長い歴史を持つ別府市が誇る人権啓発のための学級でもあります。この学級の目的は、「部落差別をはじめとした、さまざまな人権問題について正しく認識し、その解決に向けて差別のない共生社会の実現を目指す

めに、保護者一人一人が物の見方、考え方や価値観、人との接し方、自己の生き方を問い直し、人権尊重の意識と態度を育む」となっています。この目的は皆さんそれぞれ達成されているのではないのでしょうか。

人権を取り巻く情勢は、女性、子ども、外国人、障がい者、高齢者に対する暴力・虐待の増加傾向、部落差別を助長するインターネット上での書き込みをはじめとする人権侵害や性的少数者の人権問題など複雑多様化しています。学ぶことにより自己の人権感覚や人権意識を高め、そして家庭で家族や子ども達に話せる環境ができればいいなと思っております。そして、今年一年間の学びを周りの方に是非伝えていただいて、還流していただければと思います。引き続き皆さまにはご協力をお願いいたしまして、閉級式の挨拶とさせていただきます。

### 3 主催者・共催者紹介

・阿南 寿和副市長          ・川口 恵美 市PTA連合会副会長          ・寺岡 悌二教育長

### 4 託児担当者へお礼の言葉

託児担当者の方には、大変お世話になりました。

お子様を預けられた保護者の皆様が安心して学級に参加することができましたこと、心より厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

### 5 人権教育学級一年間のまとめ

先般、園・学校を通じて、アンケートを実施させていただきました。その結果を踏まえて一年間のまとめとします。          集約数 42人/46校

1 別府市の公式ホームページに掲載している「人権教育学級」の概要を見たことがありますか。

これについては、「よく見る」「たまに見る」合わせて21.4%という回答をいただきました。⇒忙しい中にも関わらず2割の方がホームページを見て学習を深めています。ホームページには前年度までの講座も掲載しており、いろいろな人権講座を自分のペースで学ぶことができます。来年度もできるだけ講座の内容が分かりやすく伝わるよう、HPの充実に努めていきます。是非、人権の学びに役立ててください。

2 今後の講座の希望（複数回答）

・子どもの人権 61.9%    ・女性の人権 43.5%    ・障がい者の人権 35.7%    ・医療をめぐる問題 28.2%    ・さまざまな人権 42.5%    ・外国人の人権 18%    ・高齢者の人権 18%  
・部落差別問題 5%    別途、さまざまな人権として、インターネット 10%    性的少数者 10%  
刑を終えて出所した人    見た目問題    東日本大震災に起因する人権問題    ホームレスの人権問題    別府市ならではの人権問題などの希望がありました。

⇒このアンケート結果から受講者の課題別関心度が分かります。中には、下線で示した人権課題のように学習希望の広がりが見られますが、これも人権学習の成果の一つと考えます。多様な課題を学習することによりこれまで気づけなかった人権問題を知り、他人ごとではなく自分のこととして捉えてほしいと願っています。来年度も受講者がより主体的に学べるようテーマや内容の設定に努めていきます。

### 3 学習の場の生かし方（複数回答）

- ・「家庭で」73.8%、 ・「自己啓発」38% ・「職場で」19% ・「学校で（園を含む）」10%、
- ・「地域で」7.1% ・「その他」4.7%

⇒コロナ過で学んだことを活かすには難しさがありますが、それぞれの立場や状況に応じて皆さんが学習したことをいろいろな場で活かしていることが分かります。学ぶことで人権感覚や人権意識を高めるとともに実際に行動に移すことが重要です。貴重な学びを自分や家庭で活かすことはもちろん、学校や職場、地域等に広げて行ってほしいと願っています。

〈活かし方の例〉○講座に参加した日に家族に話した ○子どもに対してきちんと向き合えるようになった ○自分の言葉や行動を変えた ○ハラスメントに気をつけるようになった ○人の嫌がる行為はしないように意識するようになった

### 4 講座の感想等

今後の学習に活かしていくために、講座ごとにアンケートを実施しました。回ごとのアンケートでも「勉強になった」「参加してよかった」などの感想を多数いただいておりますが、ここでは、まとめのアンケートに寄せられた感想を一部紹介します。

○子どもたちのためにも大人が考えて行動しないといけないと思った。

○人権教育学級に参加しなければ人権のことを深く考える機会はなかったかもしれない。

○差別をなくすために懸命に活動されている方がたくさんいることを知った。

○みんな違うことを認め合い尊重し合える社会にするために、正しい知識をもつことを怠らるようにしたい。

⇒講座の内容を自分の学びとして積極的に取り入れ、これからも活かしていきたいという感想がほとんどでした。

これからも寄せられた感想や意見を十分に検討し、受講者のより大きな学びとなるよう一層の充実を図っていきます。

#### <1年間のお礼>

この一年間、ご多忙の中、令和4年度の人権教育学級にご参加いただき、誠にありがとうございました。第8回までの年間を通して、延べ325人の方にご参加いただきました。

学習会の進め方としては、コロナ禍ということもあり、班での話し合いや全体交流を行わず、講演（質疑応答を含む）のみの形をとらせていただきました。

来年度も、一人でも多くの方にご参加いただき、人権についてみんなで考えていければと願っています。この一年間、本当にありがとうございました。

### 6 受講者代表のこぼ

北部中学校 PTA 矢野 和美



<代表として言葉を述べる矢野 和美さん>

今年度、北部中PTAとして、この人権教育学級に参加させていただきました。初日のオリエンテーションで、「人権学習は、まずは正しく人権課題を知ることから」と言われていました。確かに人権や差別、偏見問題を説明しなさいと言われてもざっくりとした考えしかなく言葉で誰かに伝えることはとても難しいと思いました。

8回の人権教育学級を受けて、私は幼少期のことを思い出していました。私は、当時、いつも4人の仲良しグループで遊んでいたのですが、ある日、その中のAちゃんがグループから離れていきました。理由を尋ねると「親からその場所に住んでいる子は素行がよくないから付き合いはいけないと、言われた。」というのです。

今回、人権教育学級を受講して自分なりにいろいろと人権や差別について考え、当時一番つらくてかわいそうだったのは、住んでいる環境で両親から差別を強いられ、友だちからも責められたAちゃんだったと気づきました。

差別とは人権とは何かを考える良い機会をいただけたことに感謝すると同時に人の数だけさまざまな考え方があり、立場や環境、歴史的な背景など多くの課題があり、人権・差別問題は容易に解決できるようなことではないと痛感しました。

私の幼少期のような、すごく身近なところでも小さな差別はたくさん起こっているはずですが、微々たることかも知れませんが、今回私が学んだことを自分の家族や受講していない周りの人に発信することにより、人権について何らかの形で考えてくれる人が増えればよいなと思いました。

最後に、コロナ過によりグループ討論や交流会ができなかったのはとても残念でした。また、通常どおりの人権教育学級ができることを心より願っております。

令和5年2月16日

## 7 おわりのことば